

私たちにできること

仙台市立第一中学校

二年

河野

美奈希

ある日、私はニュースで流れた映像を見て  
衝撃を受けた。

猛スピードで流れ下る土砂。次々ともれ、  
なぎ倒されていく建物。逃げまどう消防隊員。  
あの光景が、今も脳裏にバツたりと貼りついで  
いる。

二〇二一年七月三日に、静岡県熱海市で、  
大規模な土石流が発生した。死者・行方不明  
者も多数。熱海市に甚大な被害をもたらした。  
土と泥と瓦礫にうもれた町は真っ茶色に染ま  
り、土石流の破壊力と恐ろしさを物語ってい  
るようだった。

この熱海市の土石流の最大の原因とされて  
いるのは「盛り土」。どうやら盛り土の工法が  
不適切であつたらしい。静岡県の副知事が、  
会見でこのような発言をした。一方で、盛り  
土をした業者は、

「豪雨はこれまでもあったが、崩れることは  
なかった。  
と、責任を否定するような発言をしている。  
もし、副知事の発言が事実であれば、私はと  
ても悲しい。ただでさえ、盛り土というものは  
災害に弱いというのに、工法が不適切であ  
った、というのはどういうことなのだろうか。  
しっかりと適切な工事を行っていれば、この  
ような災害は起こらなかったかもしれない。  
しかし、土石流の原因が判明したとしても、  
亡くなった方の命が戻ってくる訳ではない。  
大切なのは、災害で得た教訓を、次に生かす  
こと、そして、災害の経験を語り継いでいく  
ことだと、私は考える。  
この土石流については、あらゆるメディア  
が報道し、被害にあった熱海市の映像を見る  
たびに、このような災害はもう二度と起こ  
てはならない、と強く感じた。そこで私は、  
土石流などの土砂災害から身を守るために、  
私たちにもできることを調べてみた。

一つ目は、自分の住んでいる場所が「土砂災害警戒区域」かどうかを確認することだ。土砂災害のおそれのある地区は、「土砂災害警戒区域」や「土砂災害危険箇所」とされてい  
る。普段から、自分の家がこれらの土砂災害  
のおそれのある地区にあるかどうか、確認し  
ておくと良い。

また、避難の際に、どこにどのよう逃げ  
るのかを知っておくことも重要である。市町  
村が作成する土砂災害ハザードマップを利用  
して、避難場所や避難経路をしっかりと確認  
しておこう。

二つ目は、雨が降り出したら、土砂災害警  
戒情報に注意することだ。土砂災害警戒情報  
は、テレビやラジオの気象情報でも発表され  
るため、こまめに確認して新しい情報を得る  
と良いだろう。それに加え、大雨による電波  
障害や停電など、いかにいうときのために、  
携帯ラジオを持っておくこと安心だ。

三つ目は、もし自分の住んでいる地域に土

砂災害警戒情報が発表された場合、安全な場  
所に避難することだ。特に、お年寄りや障害  
のある人など、避難に時間がかかる人は、移  
動時間を考えて、早めに避難させることが大  
事である。また、普段から避難訓練に参加し  
て、避難に慣れておくこともとても良いだろ  
う。

自分の家より自分の命の方が大切である。  
迷わずに行動しよう。

ちなみに、土石流の速さは時速二十から四  
十キロメートル。この速度では、人間が土石  
流から逃げて、追いつかれる可能性が高い。  
そのため、もし土石流に遭遇した場合は、土  
石流の進向方向ではなく、横の方向に逃げる  
ことが鉄則である。慌てずに、冷静な判断を  
下すようにしよう。

土石流などの土砂災害は、近年、発生が増  
加している。身を守るためには、日頃からの  
備えが非常に大切であることが分かった。猛  
烈な雨が原因の土砂災害を防ぐことは難しい

が、人間による工事が原因の土砂災害は、防  
ぐことができたはずだ。熱海市で起こった土  
石流のような災害が、今後二度と起こらない  
ことを祈っている。

私の住んでいる地域は、土砂災害警戒区域  
ではないため、私は一度も土砂災害の被害を  
受けたことはない。だが、土砂災害の恐ろし  
さを改めて実感した今、私たちにできる対策  
を実践してみたい、と感じた。みなさんも、  
土砂災害に対する意識を高め、今私たちに何  
ができるのか、考えてほしい。  
その行動がきっと、あなたの命を救う。